

項目	内容
名称	メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ、マツヨイグサ [英]Common evening primrose [学名]Oenothera lamarkiana (Oenothera biennis L., O.odorata Jacq)
概要	メマツヨイグサは、世界中の温暖な地域にみられる多年草で、その種子油には必須脂肪酸が多く、特にγ-リノレン酸を豊富に含む。メマツヨイグサはツキミソウと混同しやすいが、別の種類であるので区別して、ここではメマツヨイグサとその近種についてのみ記述する。また、日本で市販されている月見草油と呼ばれるもののほとんどは、マツヨイグサやメマツヨイグサである。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メマツヨイグサ (オオマツヨイグサ/マツヨイグサ) 全草: 「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> <li>・ツキミソウ油 (ツキミソウ) 種子の油: 「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> </ul>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花に精油を含む。全草および種子の抽出オイルにはγ-リノレン酸 (gamma-linoleic acid、GLA)、不飽和脂肪酸が含まれる。花の萼と根にはサポニンを含</li> </ul>

む。

・日本産のマツヨイグサについては、薬用部分は根（待宵草<マツヨイグサ>）。日本産のものはほとんど薬用にされることはない。中国では待宵草として、結実期の夏から秋に採集し、乾燥させて使用する。根にはブドウ酒様の香気がある。南米チリ原産。日本では各地に分布。多年草で、花期は5～8月。一方メマツヨイグサは直立性の2年草で、広い地域に帰化している。夏には夜薫る黄色い花が咲き、小さい種子が入った、毛に覆われたさやができる。

分析法	-
有効性	
ヒトでの評価	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	<b>メタ分析</b> ・2010年6月までを対象に3つのデータベースで検索できた臨床試験について検討したシステマティックレビューにおいて、ブラックコホシュ、イソフラボン、レッドクローバー、ダイズ、ビタミンE、朝鮮人參、トウキ、メマツヨイグサ油、ヤムイモ、カバ、メラトニンを代替医療としてそれぞれ単独使用することが、更年期女性のホットフラッシュに与える影響との関連は認められず、長期使用の安全性データが不十分であった ( <a href="#">PMID:20833608</a> )。 <b>RCT</b> ・慢性の重症な乳房痛を有する閉経前女性を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、メマツヨイグサ油を6ヶ月間摂取させたところ、症状持続日数に影響は認められなかった ( <a href="#">PMID:12439536</a> )。 ・更年期女性56名（試験群28名）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、メマツヨイグサ油500 mg/日を6ヶ月間摂取させたところ、ホットフラッシュの回数に影響は認められなかった ( <a href="#">PMID:8136666</a> )。 ・ビタミンD欠乏の多嚢胞性卵巣症候群患者60名（試験群30名、平均26.4±8.1歳、イラン）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、メトホルミン治療とともに、ビタミンD3 1,000 IU/日およびメマツヨイグサ油 1,000 mg/日を12週間摂取させたところ、酸化関連マーカー（グルタチオン）の増加、酸化関連マーカー（MDA）、血中脂質（TG、VLDL-C、TC/HDL-C比）の減少が認められた ( <a href="#">PMID:28742409</a> )。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	<b>RCT</b> ・アトピー性皮膚炎患者102名を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、メマツヨイグサ油を16週間摂取させたところ、症状スコアに影響は認められなかった ( <a href="#">PMID:8099640</a> )。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。

その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</p> <p>(23) 天然食品・薬品・化粧品的事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳</p> <p>(25) クリニカル・エビデンス日本語版 日経BP社 日本クリニカル・エビデンス編集委員会</p> <p>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p> <p>(58) The Complete German Commission E Monographs  <a href="#">(PMID:7846101) Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 1994 Nov;51(5):311-6.</a>  <a href="#">(PMID:9391777) Drug Saf. 1997 Nov;17(5):342-56.</a>  <a href="#">(PMID:8136666) BMJ. 1994 ;308:501-3.</a>  <a href="#">(PMID:12439536) Am J Obstet Gynecol. 2002 Nov;187(5):1389-94.</a>  <a href="#">(PMID:8099640) Lancet. 1993 Jun 19;341(8860):1557-60.</a>  <a href="#">(PMID:8884146) Dermatology. 1996;193(2):115-20.</a>  <a href="#">(PMID:2667620) Br J Dermatol. 1989 Jul;121(1):75-90.</a>  <a href="#">(PMID:3048953) Drugs Exp Clin Res. 1988;14(4):291-7.</a>  <a href="#">(PMID:3307886) Br J Dermatol. 1987 Jul;117(1):11-9.</a>  <a href="#">(PMID:7924900) Drugs Exp Clin Res. 1994;20(2):77-84.</a>  <a href="#">(PMID:9932142) Aging (Milano). 1998 Oct;10(5):385-94.</a>  <a href="#">(PMID:2270749) Acta Neurol Scand. 1990 Sep;82(3):209-16.</a>  <a href="#">(PMID:10071170) Acta Neurol Scand. 1999 Feb;99(2):112-6.</a>  <a href="#">(PMID:1668100) J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 1991 Dec;37(6):573-9.</a>  <a href="#">(PMID:12213429) Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2002 Jul;67(1):1-12.</a>  <a href="#">(PMID:20833608) J Am Pharm Assoc (2003). 2010 Sep-Oct;50(5):e106-15.</a>  <a href="#">(PMID:21085832) J Bras Pneumol. 2010 Oct;36(5):657-61.</a>  <a href="#">(PMID:18154917) J Pediatr. 2008 Jan;152(1):140, 140.e1.</a>  <a href="#">(PMID:2833184) Ann Rheum Dis. 1988 Feb;47(2):96-104.</a>  <a href="#">(PMID:28742409) Endocr Res. 2018 Feb;43(1):1-10.</a>  <a href="#">(PMID:31670573) J Child Adolesc Psychopharmacol. 2020 Feb;30(1):38-47.</a></p>